

中長期事業計画 Chuo Vision 2025

学校法人中央大学は、創立 130 周年にあたる 2015 年にその後の 10 年間を見ずえた中長期事業計画「Chuo Vision 2025」を策定し、計画の主な基本方針を 4 つの【Approach】として本学公式 Web サイトで公表しております。実施 3 年目にあたる 2018 年 6 月末および 8 月末には、本学として 26 年ぶりとなる新学部の設置が認められるなど、成果が着実に実を結んでまいりましたのでその内容をお伝えします。

【Approach】1

教育組織の改編・創設

Establishing New Faculties

学部増設による総合大学としての魅力向上

現代社会が直面する課題に応えるため、教育研究体制の再編を検討してまいりましたが、まずは 2019 年 4 月に 2 つの学部を開設することといたしました。これにより新たに 2 学部 2 学科が増え、8 学部 26 学科を有する総合大学として、さらなる魅力向上を目指します。

国際経営学部 <多摩キャンパス>

<目指す人材像>

国際経営で共生社会に貢献するグローバルビジネスリーダー



■ 2019 年 4 月、国際経営学部を多摩キャンパスに開設（入学定員 300 名）。グローバル共生社会における企業活動の担い手として、国際社会を舞台に活躍できる世界基準のビジネスリーダーを育成します。経営学を中心とした専門知識とグローバルなコミュニケーションスキルを同時に身に付ける体系的なカリキュラムによって、海外やグローバル企業で働くビジネスパーソンやビジネスリーダーとなる資質、実践力を鍛えます。

<カリキュラムの特色>

1. 設置科目の 7 割以上が外国語（主に英語）による授業

必修科目や多くの科目が英語による授業のため、卒業に必要なすべての単位を英語で行われる授業で修得することも可能となります。

3. 海外短期留学を必修化

1 年次に海外短期留学を必修科目とし、早い段階から海外の企業活動や異文化に触れることで、語学と国際経営学の学習意欲を向上させる仕組みとなっています。

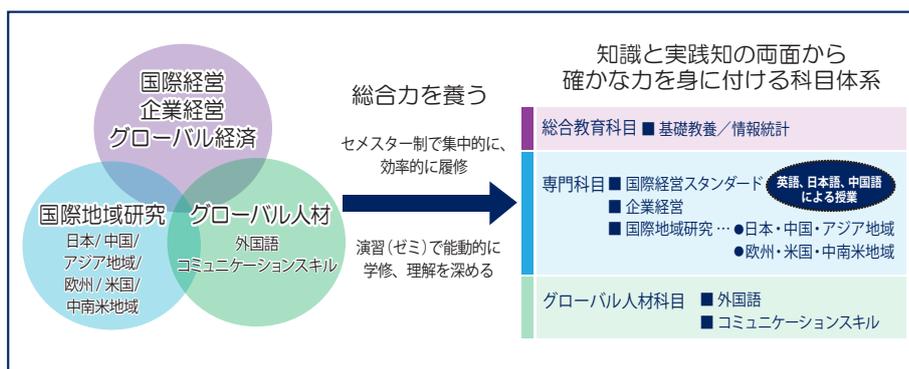
2. 授業の内容、理解を深めるチュートリアル授業の実施

基礎となる専門必修 5 科目は、通常の授業（使用言語：英語）に加えて、授業の内容をフォローし、理解を深めてもらうためのチュートリアル授業（使用言語：英語 + 日本語もしくは中国語）を実施します。

4. 外国人留学生を対象とした秋入学を実施

世界の主流となっている秋入学を中央大学で初めて実施します。これにより、外国人留学生を積極的に受け入れ、「内なる国際化」を実現します。さらに、多様な学生の交流の中から、相手を理解、尊重し、もってグローバル共生社会を構築する力を涵養します。

国際経営学部・学びの概念



国際経営学部パンフレット

国際情報学部 <市ヶ谷田町キャンパス>

<目指す人材像>
国境なき情報の諸問題を解決する情報戦略家



国際情報学部の愛称は「iTL (アイ・ティ・エル)」です。「Information Technology & Law」の頭文字と、「Ichigaya Tamachi Link」の頭文字を表しています。ロゴは、デジタル&スマートを表現したデザインとなっており、「未来に向かって情報分野の発展を担っていく学部」という想いが込められています。



■2019年4月、国際情報学部 (iTL) を市ヶ谷田町キャンパスに開設 (入学定員 150 名)。『情報の仕組み』と『情報の法学』を融合し、国際的情報サービス・政策を実現できる人材を養成します。iTL とは、国際情報学部の学びである“『情報の仕組み』と『情報の法学』の融合”を意味する “Information Technology & Law” と、市ヶ谷田町キャンパスが人と社会と情報を Link する “Ichigaya Tamachi Link” であること、の2つの意味を表しています。社会の諸問題を解明し、解決するための学びとして、ICT 情報スキルを学ぶ「情報基盤」、情報に関する法学の理論や情報政策を学ぶ「情報法」、それらを融合した「情報発展」「情報実践」、幅広い教養とグローバル社会で活躍するための素養を学ぶ「グローバル・教養」を総合的に学べるカリキュラムとなっています。

<教育の特色>

1. 情報の仕組み、情報の法学、グローバル教養が融合した「文系情報学部」

人と人をつなぐ ICT 情報基盤 (情報技術、情報コミュニケーション等の素養)、情報の法学 (法規範のみならずグローバルな社会規範も包含した情報規範)、グローバルな感性 (異文化理解や倫理・哲学・宗教学等のグローバル教養)、これらを合わせた総合的な視点から情報の諸問題に対する解決策の提言やその社会実装を実現します。

2. 基礎理論の修得と実践型の科目が連携した教育課程編成

情報基盤、情報法の基礎理論を学ぶための 66 単位の必修科目および、基礎理論を踏まえた実践型の科目 (情報発展・情報実践科目) によって教育課程が編成されています。

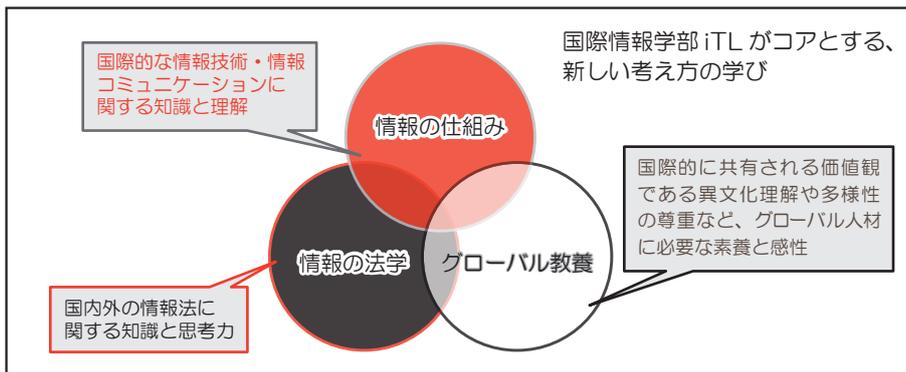
3. 実務家教員による実践型授業

情報社会をリードする産官学の現場 (官庁、グローバル ICT 企業、デジタルメディア企業など) から実務家教員を招へいします。情報分野における現場の第一線で活躍している実務家教員による先進性の高いテーマを扱う科目を多数設置しています。

4. 新宿区市谷田町での学びと発信

市谷田町の立地を生かして、教育研究の成果をリアルタイムで発信できる情報発信キャンパスとして産官学の組織連携による学びを実現します。

国際情報学部・学びの概念



国際情報学部パンフレット

- 少子高齢化や福祉の充実など地域社会が抱える課題を解決するための政策形成、マネジメントに関する教育研究や、生涯スポーツを通じた健康作り、スポーツ振興に関する教育研究等を行う新学部として、健康スポーツ科学部 (仮称) を 2020 年以降に開設することを目指して検討しております (設置構想中)。
- 理工学分野の理工学部情報工学科は、引き続き後楽園キャンパスにて教育研究活動を充実してまいります。
- 総合政策学部は、当面、従来通り、既設の 2 学科 (政策科学科・国際政策文化学科) で教育研究活動を行ってまいります。
- 総合政策学部を発展改組し、学部単位の教員組織を学術院という大きな単位に改編する計画については、他の学部の学術院構想とも関連することですので、現在、継続して検討しております。